

## ■効果の見える治水事業

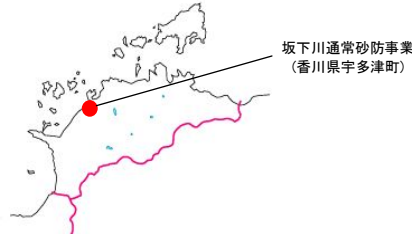
### 香川県 坂下川(宇多津町)の砂防事業

香川県中讃土木事務所長 松岡 辰夫



#### 【被災の状況】

平成16年10月20日、台風23号の接近に伴う激しい雨の影響で、香川県中部に位置する宇多津町坂下の坂下川では土石流が発生し、幸い人的被害は無かったものの、人家1戸が全壊、一部破損1戸が生じ、5戸10名が一時避難を行うなどの被害が発生しました。



坂下川通常砂防事業  
(香川県宇多津町)

#### 【事業概要】

このため、平成17年度より坂下川通常砂防事業に着手し、平成21年3月に事業完了となりました。

ダム地点下流には多数の人家や地域の生活道路となっている県道及び町道等があり、これらを再度の土石流から守り、甚大な被害を防ぐ効果が期待できます。

施工にあたっては、渓床勾配が急峻であり、中小出水でも土石流が発生する恐れがあったことから、細心の注意を払いながら実施しました。

また、上流にある寺院への参道が施工区域と重なることから、参拝者の安全のため、仮設の転落防止柵や迂回路を設置するなどしました。

- 整備施設  
砂防えん堤1基(堤高12.5m、堤長94.0m)
- 事業期間  
H17～H20
- 効果量  
貯砂量3,100m<sup>3</sup>、抑止量120m<sup>3</sup>
- 保全対象  
人家28戸、町道130m、県道170m

#### 【おわりに】

今後もこのようなハード面での砂防事業の促進を図るとともに、危険箇所の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制等ソフト面においても充実させるなど、ハードソフト両面からの、総合的な土砂災害対策の推進に努めていきたいと考えています。



土石流発生状況



砂防えん堤完成状況

## 「安心・安全のまちづくり」

宇多津町長 谷川 実



宇多津町は香川県のほぼ中央に位置し、東は坂出市、西は丸亀市に隣接する人口約18,000人、総面積8.07km<sup>2</sup>の県下で最も狭い町です。7世紀後半にはすでに、海上交通の港(津)、“鵜足津”と呼ばれる自然港が現れた歴史ある町です。室町時代には將軍足利義満の側近だった細川頼之公の居館が置かれ、四国の政治・経済の中心地として栄え、古くは28ヶ寺が建立されていました。今も旧市街地には四国八十八ヶ寺霊場の一つ郷照寺をはじめとした1社9ヶ寺や町家など往時を偲ばせる古い町並みが残っています。

また温暖で降水量が少なく、日照時間が長いという瀬戸内海特有の気候を利用して、江戸時代中期から昭和47年の塩田廃止までは、全国屈指の塩の町でもありました。こうして古くから政治、経済、文化の拠点として発展を遂げてきた本町は、臨海部の塩田跡地を土地区画整理事業により、瀬戸大橋架橋を機に、新宇多津都市という新しい町の表情を生み出しました。昨年には町制施行110年を迎え、これを節目にさらに新たな歴史を築こうとしています。

さて、災害に関しますと、平成16年に多発した台風で、16号、23号の高潮被害や大雨による浸水、土砂崩れ被害など本町が経験したことのない大きな被害を受けたことで、改めて自然災害の猛威を感じました。幸いな事に人的な被害がありませんでしたが、近年、災害の態様は複雑・多様化、大規模化しており、全国各地で大きな災害が発生しています。

また、昨年8月には約30分の間に50ミリを越える想像を絶するようなゲリラ豪雨に見舞われ、床下浸水家屋54戸という被害も発生いたしました。温暖化が取りだたされるなか、この教訓を生かし、今後の雨水排水対策を講じる必要があります。

さらに、近年においては、東南海・南海地震の発生も危惧されていることから、今後は、あらゆる災害に対する備え、また自主防災組織を始めとした地域住民との連携訓練など、防災体制の確立と「安心・安全のまちづくり」を目指して参ります。

住民と消防団による防災訓練の様子



土のう作り



担架搬送